



穏やかな笑顔で迎えてくれた住職の小田さん

題材は十二支に加え、季節の花々や野菜や動物です。庶民の暮らしを彩ったものを集めた、見る人の心をほっこりとさせるものばかり。

5年前の熊本地震で被災した浄信寺では、今年4月に本堂が再建されました。「奇跡的に残った天井絵の183枚の内、3枚は損傷しましたが、他は無事でした」と話すのは

明治期に描かれた天井絵が飾られているのが、田原地区にある494年の歴史を持つ「浄信寺」です。天井絵は、明治8(1875)年から10年にわたる2年間で、寺院絵師の稲垣石齋氏が描きました。

復活した、 浄信寺の天井絵

タイトル作品もあり、時代の自由感が伝わってきます。

津森映劇は、昭和38年に閉館したそうで、懐かしい時代の町の思い出を教えてくださいました。



熊本地震から再建された浄信寺の本堂

住職の小田孝行さん(72)です。

地震前は黒ずんでいたという天井絵でしたが、小田さんが慎重に汚れを落とすと、以前より美しい色が出てきたそうです。「本堂の火鉢やお香などのすがすがしい時間をかけて天井絵に付いたのでしょうか。そのことによって、彩色が守られたのだと思います」と小田さん。

特筆すべきが方位絵。本堂の方位を指す針が寸分の狂いもなく描かれてあり、驚きです。

「どなたでも、自由に天井絵をご覧くださいいただけます。いつでもいらしてください」と小田さんは優しい笑顔を向けてくれました。

散歩の終わりに

秋には彼岸花に彩られる木山川沿いの堤防を歩いてみました。夕日に包まれる時刻、第一平田橋の向こうからヘルメットをかぶり自転車をこいで下校する、木山中3年生の男子生徒たちに出会いました。

少年たちの、はつらつとしてまっすぐな笑顔はまぶしいばかり。

どうやら、明日もお天気ようです。



天井絵の中に描かれている方位絵



町の文化財となっている浄信寺の山門



野菜や果物など庶民の日々の景色を描いた天井絵



木山中の3年生たち。左から野田君、青木君、岡本君、西本君、渡辺君、宇土君



寺中・田原編

